

愛媛県立内子高等学校（以下、「内子高校」）は、今年で創立106年となる伝統ある学校です。「地域に学び、地域と学ぶ」を掲げる同校を応援するため、内子町は学校と地域を結ぶ専属の魅力化コーディネーターを配置しました。地域と連携した「総合的な探究の時間」の展開、学習センターの開設、さらに全国の舞台でも活躍する活発な部活動など、生徒の成長を支えるさまざまな機会をつくることで、魅力化を図っています。

今回は同校の魅力を、在校生や卒業生の声とともに紹介します。地域に住む私たちは、「地域に根差した学校」を目指す同校の生徒の成長と深く関わり合うはずで、私たちが教育に関わる意義についてもぜひ、考えてみたいと思います。



UCHIKO HIGH SCHOOL STORY

内子高校物語



郷土芸能部

聞く人に笑顔と感動を届けたい

入学式で聞いた太鼓の迫力に魅了され、入部を決めました。心に残るのは昨年の県総文祭。最優秀賞を受賞し、今年の全国大会出場を決めたことです。チャンスは2年に1度なので、自分たちの代で絶対に行く、という思いでした。演奏では「笑顔と感動を」を合言葉に、自ら楽しむことを大切にしています。地域のイベントで披露し「感動した」「涙が出た」と言ってもらえたときは、最高にうれしいです。「郷芸に入りたい」と松山から通う子もいるほど。心を大きく成長させてくれる部活です。

高田彩音さん(3年)



陸上競技部

仲間と一緒に努力し、高め合える環境

西予市出身で、中学でも陸上競技をしていました。高校でさらに上のレベルを目指したいと思い、毎年インターハイ出場者を輩出している内子高校に進学しました。練習は想像以上に厳しいですが、それを乗り越えて記録を伸ばしていく先輩たちを見てきたので、自分も頑張ろうと思えます。部のスローガンは「素質はいらない、誰よりも努力」。部員それぞれが目標を持ち、努力し高め合える環境です。高校から始める部員も多いので、ぜひ一緒に頑張りましょう。

佐々木龍風さん(3年)



ライフル射撃部

誰にでも上を目指せるチャンスがある

中学時代の友達がライフル射撃を始めると聞き、見たことのない競技だったことや、高校から始めても全国大会を目指せることに魅力を感じて入部しました。学年を超えて仲が良いのが部の伝統です。競技は練習した分だけ上達し、成長を実感できるのが面白いところ。体の大きさはあまり関係なく、誰にでも上を目指せるチャンスがあります。全国大会でレベルの高い選手の射撃を見ると刺激を受け、勉強になります。それに競技で鍛えられる集中力は、きっと勉強にも生かせるはず。皆さんも挑戦してみませんか。

井上一輝さん(3年)



進学・就職など、進路の希望に応じた学び方ができる内子高校。アットホームな雰囲気先生との距離も近

く、生徒同士で教え合う場面も見られます。そんな普通の教室の様子をのぞいてみましょう。

内の子Baseに関するQ & A

- Q 休日も使えるの？
- A 現在、月2回開校しています。要望が多ければ今後、実施日を増やすことも検討します。
- Q 家での勉強方法を教えてもらえる？
- A もちろん大丈夫です。Baseで聞いてもいいし、インスタグラムでも発信する予定です。
- Q 授業形式で教えてもらうことは？
- A プチ講座を随時開催しています。気軽にスタッフに声をかけてください。



先生と生徒の距離が近い教室

取材当日は期末テストの前。先生が問題の答えと出題範囲を説明し、生徒の皆さんは黙々とノートを取ります。

内子高校では1年次は全生徒が共通の内容で学び、2年次からは生徒が目指す進路に応じた2類型・3コースのカリキュラムを編成しています。アットホームな雰囲気の中で、日々の授業は進んでいきます。

放課後の学びを支援する学習センター開校

4月から校内の教室を利用した学習スペース「内子町学習センター『内の子Base』」(以下、「Base」)がオープンしました。開校は放課後から午後9時まで。内子高校生であれば誰でも無料で利用でき、常駐するスタッフから学習指導を受けたり、帰りの交通機関の待ち時間に課題を解いたり、幅広く活用できます。

テスト前の6月下旬、Baseは試験勉強に取り組む生徒で

利用者の声



福積ゆあさん(1年)

声を聞いて、配席が変わったそうです。いつもスタッフの人がいるので、分からないことがあればすぐに聞けるのが助かります。

分からないときに、すぐ聞けるのがいい！

テスト期間の勉強で使っています。友達と一緒に勉強するのも、一人でじっくりやるのも選べていいと思います。利用する生徒の

大量だあ〜



いっぱいになっていました。室内にはグループで座れる席や、仕切りが立てられた壁際の席などがあり、自分の学習スタイルに合わせた使い方が可能です。利用者は少しずつ増えており、「家に帰る前に勉強する習慣がついた」という声も。放課後の生徒たちの新しい居場所として、学びの時間づくりにつながっています。



周りもやっているから、勉強モードになれる

母に「やることはやっておきなさい」と言われ、使い始めました。放課後に友達と一緒に勉強するのは新鮮。周りもみんな勉強し

ている環境だと、家でやるよりもはかどります。利用は短時間でもOK。自分のペースで使えるのがありがたいです。

芝祐音さん(1年)



くらしLab 子どもグループ



内子保育園で園児たちと交流。生徒が考えた魚釣り遊びに、子どもたちは夢中になってくれたみたい。子育ての現場には、成長を支える工夫がいっぱいだった

ふるさとLab 笹飾りグループ



「内子笹まつり」で使用する笹飾り作りを、内子町商工会で体験した。飾り一つ作るだけでも膨大な作業量。伝統を守っていくことの大変さを知った

くらしLab 環境グループ



内子町役場・環境政策室の指導で、地球温暖化対策の取り組みを学ぶ「脱炭素まちづくりPLAY」に挑戦。参加者は事業者や行政職員などの役となり、それぞれの立場でエコな取り組みを進めるためのカードを集めていく。誰かと協力することで事業が進んだり、逆に資金を使い過ぎて手詰まりになったり……。環境を守るために今、できることを考える機会になった



にぎわいLab 観光グループ



町並み保存地区について調べるため、八日市護国町並み保存会の皆さんへの聞き取りを実施。地図を広げて、昔の店があった場所などを教わり、書き込んでいく。古い写真を見て「パッチン(めんこ)でよく遊んだなあ」「車なんか通らなかったから」と懐かしむ保存会の皆さん。しみじみとした口調と優しい表情から、地図には載っていない地域への愛情が伝わってくる



「地域に学び 地域と学ぶ」住民との協働が育む郷土愛

内子高校の「総合的な探究の時間」は、生徒が研究内容を自由に設定し、探究と実践を繰り返しながら、社会で活躍するための力を養う授業です。「にぎわい」「ふるさと」「くらし」の3つのLab・計11グループに分かれ、まちの歴史文化の調査、事業の企画などに取り組みます。

内子町は八日市・護国の町並みをはじめ、歴史的価値を大切に保存してきました。その思いは建物を残すだけでなく、土地の風習や伝統的な祭り、美しい景観、環境を守り、今のまちを形作っています。内子町には高校生の学びを深める場として、無限の可能性が秘められています。

Labでは町民の皆さんが「講師」役。生徒はテーマに沿ってヒアリングをしたり、イベントを手伝ったりしながら、実践を通してまちへの理解を深めます。こうした住民との協働が、内子をより深く知り、大切なものをつなぐよう願う生徒らの郷土愛をまた一つ、育ててくれるのかもしれない。

Interview

地域への深い愛着が美しい町並みをつないでいる
小野植理紗さん(3年)

観光客向けのパンフレットを作成するため、町並み保存地区について調べています。ヒアリングでは「ここに道はなかった」「駄菓子屋があった」と、昔のことをたくさん教わりました。いつもの通学路に今とは全然違う景色が広がっていたと知り、新鮮な気持ちに。たくさんの方が地域に愛着を持っているからこそ、美しく守り続けられていることにも気付きました。

卒業後は、大学で地域資源の活用について学びたいと思っています。保存会の皆さんに教わった昔の遊びも、内子町の観光に生かせないかなと考え中です。将来はもちろん内子町で、地域に幅広く関われる人材になりたいと思います。



きれいなまちを守るために自分から、できることから
篠崎陽翔さん(3年)

脱炭素のロールプレイングは、進めていくほど理解が深まり楽しかったです。これから必ず起こる気候危機に備え、できることから始めるのが大切だと学びました。

普段の授業と違い、探究の時間は自分たちから動かなければ活動が進みません。正直、以前は環境にあまり関心がありませんでした。今では探究の学びを通して、地域のごみ拾いや花植えなどにも参加したいと思うようになりました。その場で高校生の取り組みも、皆さんに知ってほしいです。知清橋がいつもきれいなのは、地域の人たちの活動のおかげ。自分もできることを探しながら、きれいなまちを守っていききたいです。





愛媛大学社会共創学部
弦田玲那さん 内子1 年

内子町役場
山本芽生さん 内子18 第2 年

服部樹来さん 内子13 年

上田祐稀さん 大洲市 2 年

金井大雅さん 西沖 1 年

「探究の時間」があったから、知ることができた 山本芽生

―高校で楽しかったことは。

弦田 郷土芸能部のことは後輩(服部さん)に譲るね。私は役場が開くワークショップに参加したこと。大人と話す機会を持って、人前でも物おじしなくなった。

―もちろん礼儀は守った上で、すごく仲良くなれた気がする。

山本 総合的な探究の時間に凧作りを経験したこと。紙漉きをしたとき、和紙職人も、紙漉きに必要すだれを作る職人も担い手不足だと知った。この時間があつたから知れたこと。学ぶことで興味を持ち、「やってみよう」と思う人が出てくればいいな。

―探究の時間で学んだことは。

服部 僕は防災グループ。避難所生活を想定し、自分で防災グッズを考えている。

服部 やっぱり部活動。本番も練習も好き。表現力やコミュニケーション力も鍛えられる。

上田 楽しいことが多すぎて(笑)。私は商業コースだから今は電卓。先生がすごく分かりやすく教えてくれる。あとは資格を取ること。英検準2級に挑戦したい。

金井 友達との時間が一番。内子高校は個性的な先生も多くて楽しい。ギャグを言ったり、掃除の時間に恋愛話をしてくれたり。

弦田 高校では先生が生徒に関わってくることが多く、

弦田 探究の時間に参加した凧作りが部活動に生かされたことも。郷土芸能部に凧合戦がモチーフの曲があつて。実際に凧を見て、作って揚げることで「こういう気持ちなんだ」と、曲への理解が深まった。

―地域の人と関わる機会は。

金井 地元の凧合戦と、秋祭りでダイバンに叩かれる役。参加すると地域の人もみんな喜んでくれる。

山本 早い段階で先生の面談があり、少しずつ自分の方向性をはっきりさせていくことができた。2年になってからホームルームで進路について調べる時間があつたのも、すごく助かった。

山本 茶道がしたくて、町内の教室に通っていた。地域のおばあちゃんと話して、昔の内子のこと、知らない花の名前、足がしびれない正座のコツ――いろいろ教えてもらった。

上田 私の姉も先生や先輩のおかげで夢をかなえた。周りの支えが力になったと思う。最後に後輩へメッセージを。

―進路について。

山本 受験対策は先生1人で生徒5人くらいを担当していた。少人数できめ細やかに対応してもらい、ありがたかった。

山本 ぜひ本を読んで。社会人になり、語彙力の無さを痛感している。本には人の人生が詰まっている。蓄積しておいて損はない。

弦田 私が受験した総合型選抜Iでは、提出書類に探究活動の項目がある。学校での経験が役に立った。

上田 進路は迷わなかった？

弦田 やっぱり人前に立つ機会を持つこと。地域の人と話せているいる学べて、聞く力もついた。きつと学校外でも役に立つはずだから。ありがとうございます。これからも皆さんの活躍をお祈りしています。

地域の人と話し、学ぶ機会を持ってほしい 弦田玲那